



CHAPTER 6

Cisco DCNM サーバの再インストール

この章では、Cisco Data Center Network Manager (DCNM) の同一リリースがすでにインストールされているサーバシステムに Cisco DCNM サーバを再インストールする方法について説明します。

この章では、次の内容について説明します。

- 「Cisco DCNM サーバの再インストールに関する情報」 (P.6-1)
- 「プライマリ Cisco DCNM サーバの再インストール」 (P.6-3)
- 「セカンダリ Cisco DCNM サーバの再インストール」 (P.6-8)
- 「Cisco DCNM サーバの再インストール機能の履歴」 (P.6-9)

Cisco DCNM サーバの再インストールに関する情報

ここでは、次の内容について説明します。

- 「Cisco DCNM サーバを再インストールする理由」 (P.6-1)
- 「プライマリ サーバの再インストール」 (P.6-2)
- 「セカンダリ サーバの再インストール」 (P.6-3)

Cisco DCNM サーバを再インストールする理由

Cisco DCNM サーバと Cisco DCNM クライアントのダウンロード サービスを再インストールできます。プライマリ Cisco DCNM サーバを再インストールする場合、次の再インストール タイプのいずれかを選択する必要があります。

- [Custom] : 選択したコンポーネントを再インストールします。Cisco DCNM サーバを以前にインストールしたときに指定した内容を変更することはできません。この再インストール タイプは、次のいずれかを実行する場合に選択します。
 - データベース オプションまたは設定オプションを変更せずに Cisco DCNM サーバを再インストールする。
 - Cisco DCNM クライアント ダウンロード サービスを再インストールする。
 - Cisco DCNM ライセンスを、Cisco DCNM ライセンス ファイルをこれまで格納していたフォルダと同じフォルダまたは別のフォルダから再インストールする。
- [Full Reinstall] : Cisco DCNM サーバと Cisco DCNM クライアント ダウンロード サービスを再インストールします。この再インストール タイプは、次のいずれかを実行する場合に選択します。
 - ローカル管理者アカウントのパスワード回復を実行する。

- Cisco DCNM サーバの認証設定を変更する。
- PostgreSQL インストールを作成する。
- 既存の PostgreSQL インストールのデータベース URL、データベース ユーザ名、またはデータベース パスワードを変更する。
- Cisco DCNM サーバの IP アドレスを変更する。



(注) RHEL を使用していて、Cisco DCNM サーバの IP アドレスを変更する場合は、`INSTALL_DIR/bin/stopDCNM.sh` スクリプトの IP アドレスを手動で変更する必要があります。

- Cisco DCNM サーバで使用する設定可能なポートを変更する。ポートの詳細については、「サーバ ポート」(P.1-3) を参照してください。



(注) Web サーバのポート番号を変更すると、Cisco DCNM ユーザが Cisco DCNM クライアントをダウンロードするために使用する URL に影響します。



(注) ネーミング サービスのポートを変更すると、Cisco DCNM ユーザが Cisco DCNM クライアントにログインするときに指定するポートに影響します。

どちらの再インストールタイプでも、インストール フォルダまたはアーカイブ フォルダを変更することはできません。

プライマリ サーバの再インストール

プライマリ サーバの再インストールでは、次のいずれかの目的で、Cisco DCNM サーバ ソフトウェアを再インストールします。

- 単一サーバ環境で Cisco DCNM を再インストールする必要がある。
- クラスタ化されたサーバ環境でプライマリ Cisco DCNM サーバを再インストールする必要がある。



(注) 再インストール時にプライマリ サーバの設定を変更する場合は、プライマリ サーバと同じクラスタ内にあるすべてのセカンダリ サーバに Cisco DCNM を再インストールする必要があります。

プライマリ サーバの再インストールでは、Cisco DCNM インストーラ ウィザードを使用して、Cisco DCNM サーバの設定方法に関する情報を収集します。インストーラで必要な情報を入力すると、サーバ ソフトウェアが再インストールされます。

また、プライマリ サーバの再インストールでは、`INSTALL_DIR/dcm/dcnm/config` ディレクトリ内の `re-installer.properties` ファイルが更新されます。このファイルは、プライマリ サーバが属するサーバ クラスタにセカンダリ サーバを再インストールするときに使用されます。Microsoft Windows サーバ システムでは、デフォルトの `INSTALL_DIR` の値は `C:\Program Files\Cisco Systems` です。RHEL サーバ システムでは、デフォルトの `INSTALL_DIR` の値は `/usr/local/cisco` です。

セカンダリ サーバの再インストール

セカンダリ サーバの再インストールでは、セカンダリ Cisco DCNM サーバをクラスタ化されたサーバ環境に再インストールします。プライマリ サーバを再インストールし、その設定を変更する場合は、プライマリ サーバと同じクラスタ内にあるすべてのセカンダリ サーバを再インストールする必要があります。

セカンダリ サーバの再インストールはサイレント インストールです。コマンドプロンプトからインストーラを実行したあと、情報の入力を求めるプロンプトは表示されません。代わりに、セカンダリ サーバのインストールでは、セカンダリ サーバが属するクラスタにプライマリ サーバをインストールしたときに作成された `installer.properties` ファイルの情報が使用されます。

Cisco DCNM のクラスタ化されたサーバの導入では、各セカンダリ サーバをまったく同じように設定する必要があります。プライマリ サーバの `re-installer.properties` ファイルを使用することで、これを実現できます。詳細については、「[クラスタ化されたサーバの設定の要件](#)」(P.1-6) を参照してください。

プライマリ Cisco DCNM サーバの再インストール

Cisco DCNM サーバと Cisco DCNM クライアントのダウンロード サービスを再インストールできます。



(注)

再インストール時にプライマリ サーバの設定を変更する場合は、プライマリ サーバと同じクラスタ内にあるすべてのセカンダリ サーバに Cisco DCNM を再インストールする必要があります。

作業を開始する前に

Cisco DCNM サーバを停止します。Cisco DCNM サーバを停止しないと、アップグレードを続行することができません。手順の詳細については、『*Cisco DCNM Fundamentals Configuration Guide, Release 5.x*』を参照してください。



(注)

サーバ システムでウイルス対策ソフトウェアおよび命令検出ソフトウェアをディセーブルにします。一般に、Cisco DCNM サーバ ソフトウェアのインストールを妨げる可能性があるセキュリティ ソフトウェアまたは機能をディセーブルにします。インストールの完了後に、ソフトウェアまたは機能を再度イネーブルにします。

手順の詳細

ステップ 1

次に示す必要な特権を持つユーザ アカウントを使用してサーバにログインします。

- Microsoft Windows の場合、ユーザ アカウントはローカル管理者グループのメンバーである必要があります。
- RHEL の場合、ユーザ アカウントは `root` である必要があります。

Cisco DCNM を Microsoft Windows にインストールし、Remote Desktop Connection (RDC; リモートデスクトップ接続) を使用して Cisco DCNM サーバシステムにアクセスする場合は、次のようにコマンドプロンプトから RDC を開始し、`/console` オプションを使用します。

```
C:\>mstsc /console /v:server
```

`server` は、Cisco DCNM サーバ システムの DNS 名または IP アドレスです。

ステップ 2 Cisco DCNM サーバをまだ停止していない場合は停止します。

ステップ 3 Cisco DCNM インストーラ ソフトウェアを含むディレクトリに移動し、次のいずれかのファイルを実行します。

- Microsoft Windows の場合は、`dcnm-k9.release.exe` ファイルを実行します。
- RHEL の場合は、次の `sh` コマンドを使用します。

```
sh dcnm-k9.release.bin
```

Cisco DCNM インストーラが開始されると、Cisco DCNM サーバの既存のインストールが見つかったことを示す警告のダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 [OK] をクリックします。

[Introduction] ステップが表示されます。

ステップ 5 [Next] をクリックします。

[Reinstall] ステップが Cisco DCNM インストーラ ウィンドウに表示されます。

ステップ 6 次のいずれかの操作で、実行する再インストールのタイプを選択します。

- Cisco DCNM サーバと Cisco DCNM クライアント ダウンロード サービスの両方を再インストールする場合は、[Full Reinstall] をクリックします。
- Cisco DCNM サーバのみ、または Cisco DCNM クライアント ダウンロード サービスのみを再インストールする場合は、[Custom] をクリックします。

ステップ 7 [Custom] を選択した場合、次の手順を実行します。

a. [Next] をクリックします。

[Reinstall Cisco DCNM] ステップが Cisco DCNM インストーラ ウィンドウに表示されます。
[Install Set] に、再インストールできるコンポーネントのチェックボックスが表示されます。

b. 再インストールするコンポーネントのチェックボックスを選択し、[Next] をクリックします。

[License] コンポーネントを選択した場合、[Choose Cisco DCNM License Folder] ステップが Cisco DCNM インストーラ ウィンドウに表示されます。

c. [Choose Cisco DCNM License Folder] ステップが表示された場合は、Cisco DCNM ライセンスファイルを含むフォルダのパスを入力するか選択し、[Next] をクリックします。

[Pre-Installation Summary] ステップが Cisco DCNM インストーラ ウィンドウに表示されます。

d. [ステップ 29](#) に進みます。

ステップ 8 [Full Reinstall] を選択した場合、[Next] をクリックします。

[Database Options] ステップが Cisco DCNM インストーラ ウィンドウに表示されます。既存の PostgreSQL インストールを使用することも、Cisco DCNM インストーラを使用して PostgreSQL インストールを追加することもできます。

ステップ 9 RDBMS の横にある、使用する既存のデータベースのオプションをクリックします。

Cisco DCNM インストーラが既存のデータベース インストールを検出すると、[DB URL] フィールドにデータベースの URL が表示されます。



(注) Cisco DCNM インストーラによって Cisco DCNM の既存のインストールと Cisco Fabric Manager Release 4.2(1) 以降のリリースのインストールでデータベース システムが共有されていることが検出された場合、[DB URL] フィールドには Fabric Manager データベースの URL が表示され、このフィールドは設定できません。

- ステップ 10** [DB URL] フィールドに Cisco DCNM データベースの正しい URL が表示されていない場合は、正しい URL を入力します。前に Cisco DCNM インストーラを使用して PostgreSQL インストールを作成していた場合、URL は、通常、次のようになります。

```
jdbc:postgresql://localhost:5432/dcnmdb
```

5432 はデフォルトの PostgreSQL サーバポート番号で、dcnmdb は Cisco DCNM インストーラによって作成されるデフォルトのデータベース名です。

前に Oracle 10g データベース インストールを使用していた場合、URL は、通常、次のようになります。

```
jdbc:oracle:thin:@localhost:1521:XE
```

1521 はデフォルトの Oracle サーバポート番号です。

前に Oracle 11g データベース インストールを使用していた場合、URL は、通常、次のようになります。

```
jdbc:oracle:thin:@localhost:1521:ORCL
```

1521 はデフォルトの Oracle サーバポート番号です。

- ステップ 11** [DB Admin User] フィールドに、データベースの管理者権限を持つデータベース ユーザアカウントのユーザ名を入力します。
- ステップ 12** [DB Admin Password] フィールドに、指定したデータベース管理者のユーザ名のパスワードを入力します。
- ステップ 13** [DCNM DB User] フィールドに、Cisco DCNM がデータベースにアクセスするために使用するユーザ名を入力します。
- ステップ 14** [DCNM DB Password] フィールドに、指定したデータベース ユーザアカウントのパスワードを入力します。
- ステップ 15** [Confirm DCNM DB Password] フィールドに、指定したデータベース ユーザアカウントのパスワードを再入力します。
- ステップ 16** [Next] をクリックします。
- [Configuration Options] ステップが Cisco DCNM インストーラ ウィンドウに表示されます。
- ステップ 17** [Server IP Address] リストから、Cisco DCNM サーバで使用する IP アドレスを選択します。このリストには、サーバシステムのネットワーク インターフェイスに現在割り当てられている IP アドレスだけが表示されます。



(注) サーバシステムの IP アドレスはスタティックに割り当てられます。Cisco DCNM サーバは指定した IP アドレスにバインドします。Cisco DCNM サーバをインストールした後にサーバシステムの IP アドレスが変更されると、Cisco DCNM クライアントが Cisco DCNM サーバに接続できなくなるため、Cisco DCNM サーバを停止し再インストールして IP アドレスを再設定できるようにすることが必要になります。

- ステップ 18** Cisco DCNM Web サーバが待ち受けるポートを変更する場合は、[Web Server Port] ボックスに新しいポート番号を入力します。デフォルトでは、Cisco DCNM Web サーバは TCP ポート 8080 を待ち受けます。



(注) Web サーバのポート番号を変更すると、Cisco DCNM ユーザが Cisco DCNM クライアントをダウンロードするために使用する URL に影響します。

ステップ 19 Cisco DCNM サーバが Cisco DCNM クライアントからの接続を受け入れるポートを変更する場合は、[Naming Service Port] ボックスに新しいポート番号を入力します。デフォルトでは、Cisco DCNM サーバは、Cisco DCNM クライアントからの接続を TCP ポート 1099 で受け入れます。



(注) Cisco DCNM サーバのポート番号を変更すると、Cisco DCNM ユーザが Cisco DCNM クライアントにログインするときに指定するポートに影響します。

ステップ 20 (任意) [Configuration Options] ステップで一覧表示される残りのサービス ポートについて、別のポート番号を指定する場合は、次の手順を実行します。

- a. 変更するサービス ポート番号ごとに、フィールドに新しいポート番号を入力します。
- b. [Resolve Port Conflicts] をクリックします。

Cisco DCNM インストーラによって、指定したポートがすでに使用されていることが検出された場合は、未使用のポート番号がサービスに自動的に割り当てられます。

ステップ 21 [Next] をクリックします。

[IP Multicast Addresses Configuration] ステップが Cisco DCNM インストーラ ウィンドウに表示されます。

ステップ 22 (任意) Cisco DCNM サーバクラスタのプライマリ サーバをインストールする場合は、次の手順を実行します。

- a. [Partition Name] フィールドに、Cisco DCNM サーバクラスタの一意の名前を入力します。デフォルトのパーティション名は、データベース ホスト インスタンス ID です。名前に使用できるのは英数字だけです。
- b. 必要に応じて、マルチキャスト IP アドレスを変更します。インストーラで提示されたアドレスが Cisco DCNM サーバクラスタのルーティング環境ですでに使用されている場合は、マルチキャスト IP アドレスを変更する必要があります。
- c. 必要に応じて、マルチキャスト リスニング ポートを変更します。インストーラで提示されたポート番号が Cisco DCNM のインストール先のサーバシステムですでに使用されている場合は、マルチキャスト リスニング ポートを変更する必要があります。

ステップ 23 [Next] をクリックします。

[Local User Credentials] ステップが Cisco DCNM インストーラ ウィンドウに表示されます。

ステップ 24 [Local Admin Username] フィールドに、Cisco DCNM サーバのユーザの名前を入力します。インストーラによって、Cisco DCNM サーバのユーザが作成され、そのユーザに管理者のロールが割り当てられます。

ステップ 25 [Password] フィールドにそのユーザのパスワードを入力し、[Confirm Password] フィールドにそのパスワードを再入力します。



(注) 強力なパスワードを使用することをお勧めします。強力なパスワードの一般的なガイドラインとしては、パスワードの長さを 8 文字以上にすることや、少なくとも 1 つの文字、数字、および記号を使用することなどが挙げられます。たとえば、Re1Ax@h0m3 というパスワードは 10 文字で、1 つの記号と 3 つの数字に加えて大文字と小文字が使用されています。

ステップ 26 [Next] をクリックします。

[Authentication Settings] ステップが Cisco DCNM インストーラ ウィンドウに表示されます。

Cisco DCNM サーバが Cisco DCNM クライアントにログインするユーザを認証するために使用する認証方式を選択します。次のいずれかを選択できます。

- [Local] : Cisco DCNM クライアント ユーザは、Cisco DCNM サーバのユーザ アカウントによってのみ認証されます。
 - [RADIUS] : Cisco DCNM クライアント ユーザは、RADIUS サーバによって認証されます。
 - [TACACS+] : Cisco DCNM クライアント ユーザは、TACACS+ サーバによって認証されます。
- [RADIUS] または [TACACS+] の場合は、最大で 3 台のサーバを指定できます。

ステップ 27 [RADIUS] または [TACACS+] を選択した場合は、指定するサーバごとに次の手順を実行します。

- a. サーバアドレスのフィールドに、サーバの IPv4 アドレスを入力します（ドット付き 10 進数）。
- b. 秘密鍵のフィールドに、サーバの共有秘密鍵を入力します。
- c. (任意) Cisco DCNM がサーバと通信できることを確認する場合は、[Verify] をクリックします。

ステップ 28 [Next] をクリックします。

ステップ 29 選択内容の概要をよく確認します。変更が必要な場合は、[Previous] をクリックし、前の該当するステップに戻ります。

ステップ 30 Cisco DCNM サーバ ソフトウェアをインストールする準備ができたなら、[Next] をクリックします。

Cisco DCNM サーバ ソフトウェアがインストールされます。

[Start Cisco DCNM Server] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 31 Cisco DCNM サーバを今すぐ起動するかどうかを選択します。Cisco DCNM サーバを今すぐ起動する場合は、サーバの起動中にスプラッシュ画面が表示されます。

[Install Complete] ステップが Cisco DCNM インストーラ ウィンドウに表示され、Cisco DCNM インスタンス ID 番号も表示されます。

ステップ 32 (任意) Cisco DCNM のライセンスを注文する場合は、Cisco DCNM インスタンス ID 番号を記録します。ライセンス プロセスで、その番号を入力する必要があります。



(注) ライセンスがなくても Cisco DCNM の使用を開始できますが、一部の機能を使用するには、ライセンスを購入してインストールし、ライセンス対象機能を使用する管理対象デバイスにライセンスを適用する必要があります。

ステップ 33 [Done] をクリックします。

ステップ 31 でインストール後に Cisco DCNM サーバを起動するように選択した場合は、サーバの起動中にスプラッシュ画面が表示されます。

ステップ 34 (任意) Cisco DCNM サーバを起動する必要がある場合は、『*Cisco DCNM Fundamentals Configuration Guide, Release 5.x*』を参照してください。

ステップ 35 (RHEL のみ) RHEL を使用していて、再インストール時に Cisco DCNM サーバの IP アドレスを変更した場合は、テキスト エディタで `INSTALL_DIR/bin/stopDCNM.sh` スクリプトを開き、IP アドレスを新しい Cisco DCNM サーバの IP アドレスに変更します。

セカンダリ Cisco DCNM サーバの再インストール

この手順では、Cisco DCNM サーバ ソフトウェアをクラスタ化されたサーバ環境のセカンダリ サーバ システムに再インストールする方法について説明します。セカンダリ サーバのインストールでは、コマンドライン インターフェイスを使用する必要があるサイレント インストール方式が使用されます。Microsoft Windows の場合はコマンド プロンプト ウィンドウ、RHEL の場合はシェル ウィンドウを使用します。

Cisco DCNM インストーラによって、セカンダリ サーバのインストールに使用するユーザ アカウントのホーム ディレクトリに `DCNM_InstallLog.log` ファイルが作成されます。`DCNM_InstallLog.log` ファイルをモニタリングすることで、セカンダリ サーバのインストールが正常に完了したかどうかを判断できます。

作業を開始する前に

セカンダリ サーバの Cisco DCNM を停止します。Cisco DCNM サーバ ソフトウェアを停止しないと、アップグレードを続行することができません。手順の詳細については、『*Cisco DCNM Fundamentals Configuration Guide, Release 5.x*』を参照してください。

プライマリ Cisco DCNM サーバがインストールされている必要があります。

セカンダリ サーバの IP アドレスを確認します。

セカンダリ サーバ システムが前提条件を満たしていることを確認します。詳細については、「[Cisco DCNM サーバのインストールの前提条件](#)」(P.1-4) を参照してください。



(注)

サーバ システムでウイルス対策ソフトウェアおよび命令検出ソフトウェアをディセーブルにします。一般に、Cisco DCNM サーバ ソフトウェアの再インストールを妨げる可能性があるセキュリティ ソフトウェアまたは機能をディセーブルにします。インストールの完了後に、ソフトウェアまたは機能を再度イネーブルにします。

手順の詳細

ステップ 1 プライマリ サーバ システムの次の場所から `re-installer.properties` ファイルのコピーを取得します。
`INSTALL_DIR/dcm/dcnm/config`

Microsoft Windows サーバ システムでは、デフォルトの `INSTALL_DIR` の値は `C:\Program Files\Cisco Systems` です。RHEL サーバ システムでは、デフォルトの `INSTALL_DIR` の値は `/usr/local/cisco` です。

ステップ 2 次に示す必要な特権を持つユーザ アカウントを使用してセカンダリ サーバにログインします。

- Microsoft Windows の場合、ユーザ アカウントはローカル管理者グループのメンバーである必要があります。
- RHEL の場合、ユーザ アカウントは `root` である必要があります。

Cisco DCNM を Microsoft Windows にインストールし、Remote Desktop Connection (RDC; リモート デスクトップ接続) を使用して Cisco DCNM サーバ システムにアクセスする場合は、次のようにコマンド プロンプトから RDC を開始し、`/console` オプションを使用します。

```
C:>mstsc /console /v:server
```

`server` は、Cisco DCNM サーバ システムの DNS 名または IP アドレスです。

ステップ 3 ディレクトリを選択し、次のファイルをそのディレクトリにコピーします。

- プライマリ Cisco DCNM サーバシステムからコピーした re-installer.properties ファイル。
- ダウンロードした Cisco DCNM サーバ ソフトウェア。

ステップ 4 コマンドプロンプトで、必要に応じてディレクトリを変更し、作業ディレクトリが re-installer.properties ファイルと Cisco DCNM サーバ ソフトウェアを格納しているディレクトリになるようにします。Microsoft Windows では、引数を指定せずに **chdir** コマンドを使用して作業ディレクトリを表示します。RHEL では、**pwd** コマンドを使用します。

ステップ 5 該当するコマンドを実行します。

- Microsoft Windows の場合 :
dcnm-k9.release.exe -i silent -f re-installer.properties -DDCNM_IP_ADDRESS=server_ip_address
- RHEL の場合 :
sh dcnm-k9.release.bin -i silent -f re-installer.properties -DDCNM_IP_ADDRESS=server_ip_address

たとえば、セカンダリ Cisco DCNM Release 5.0(2) サーバを、IPv4 アドレス 10.72.139.14 が割り当てられている Microsoft Windows サーバシステムに再インストールする場合、再インストール コマンドは次のようになります。

```
dcnm-k9.5.0.2.exe -i silent -f re-installer.properties -DDCNM_IP_ADDRESS=10.72.189.14
```

表 6-1 に、コマンド構文を示します。

表 6-1 セカンダリ サーバのインストール コマンド構文

オプション	説明
-i silent	インストールをサイレントで行うように指定します。
-f re-installer.properties	re-installer.properties ファイルを指定します。
-DDCNM_IP_ADDRESS=server_ip_address	Cisco DCNM サーバ ソフトウェアの再インストール先のセカンダリ サーバの IPv4 アドレスを指定します。

ステップ 6 DCNM_InstallLog.log ファイルをモニタして、再インストールのステータスを判別します。Cisco DCNM インストーラによって、現在のユーザアカウントのホーム ディレクトリにログ ファイルが書き込まれます。

ステップ 7 (任意) Cisco DCNM ライセンスをインストールする場合は、第 4 章「Cisco DCNM 導入のライセンス設定」を参照してください。

Cisco DCNM サーバの再インストール機能の履歴

表 6-2 は、この機能のリリースの履歴です。

表 6-2 Cisco DCNM サーバの再インストール機能の履歴

機能名	リリース	機能情報
クラスタ化されたサーバ環境のサポート。	5.0(2)	この機能が導入されました。

